

東京土建に加入したキツカケや加入して良かったことなど教宣仲間に振り返ってもらいました。

加入してよかった

私たちの組合・東京土建

父が入っていた組合

好きになったデモ参加



遠藤(顕)さん

【台東・塗装・遠藤顕寛通信員】私が台東支部に加入したキツカケは、ずばり父が加入していたことです。

10代の時は未加入で、正式に加入したのは20代前半だったと記憶しています。当時、支部事務所が吉原大門の裏手の路地にあつたのですが、10代の時から支払いやら雑用で時々行っていました。

今思うと、不思議な気がします。当時の事務所の入ってすぐの右にはラックがあり、『今日のソ連邦』、『社会新報』、記憶違いでなければ『朝鮮何と』なる冊子もあつたと思います。動員などにも参

加していたと思います。

20代前半に正式加入後も、用事で時々行ったり、当時の田中書記も頻りに家に来ていました。青年部への誘いもあり、私は加入し他の若い仲間も含め、それなりに活動に参加していました。ことにデモ参加はどいうわけが好き

でした。普段なら歩けない道路を、警察に譲られて歩けるのですから。数こそ少ないのですが、子ども時代から本好きで新聞と世界地図もよく見ていました。父に連れられて現場に出て、きつぷの良い人が多くて心持の良いものでした。

ケガや病気で助かる

自分は健康でこられたが



森さん

【足立・瓦・森和夫通信員】私は30代で建築業の仕事に変わりました。5年ぐらいたった頃、親方が分会役員をしており、拡大月間の時に東京土建に加入を勧められました。健康保険や共済がケガや病気の時にすぐ助かるという聞き、加入することにしました。

職人はケガがつきものと思つても思つていて、ナイスなタイミングでした。加入して

き、とても助かっています。

他にも多くありますが、皆さん自身が組合活動に参加する機会があれば、容易に加入して良かったと実感できると思います。

労災事故で助けられ

分会長には今でも感謝

- 【西多摩・瓦・高野初雄通信員】天皇陛下(昭和天皇)のご容態が連日ニュースに流れていて昭和63年の秋。仕事中の不注意で屋根から転落事故を起こしました。



高野さん

「しまった」という思いが頭の中でグルグル回ります。それと同時に現場で、大工さんに迷惑をかけてしまったという自責の念が心を締めつけました。

2階の屋根から下屋(1階)の屋根に転落。階下で仕事をしていた大工さんがすかさず駆けつけてくれました。大工さんの姿を見て起き上がろうとしますが、身体がいうことをききませんでした。

結果、1カ月半の入院その後自宅療養で半年ほど仕事ができませんでした。その間も感謝しています。

つないだのが労災保険です。桜の咲くころになり、分会長になった大工さんに、東京土建に誘われました。あれから29年、あの時のことは今でも感謝しています。



川口さん

【小平東村山・大工・川口直明通信員】今年で東京土建の組合員になってちょうど20年になる。加入したキツカケは建築カレッジに入学するためだった。

高校卒業後、専門学校に進学するも1年も経たずに退学。フリーター生活を送っていたが、カレッジが開校された頃、大工の父親と主婦の会で活動していた母親から「カレッジに通いながら大工の道に進まな

いか」の提案に同意。カレッジ2期生で入学と同時に組合加入。加入後は拡大期間中に、当時の谷口青年部長の訪問で青年部に加入した。カレッジでは大工の基礎を学び、青年部では仲間を作り酒を飲み、カラオケと遊びまくった。カレッジ、青年部と知り合った仲間とは今でも仕事のやりとりをする大切なつながりを作れた。10代から30代の若い世代には組合に加入して、仕事でもプライベートでも付き合える仲間を作ってほしいと思う。

今も仕事でやりとり

カレッジ入学で組合へ



細貝さん

相談できる安心感

必要な資格も取れた

【葛飾・清掃・細貝文洋通信員】東京土建に加入したのは、ある人の紹介で会社のキツカケはなかったのですが、

何もわからないまま加入したのですが、よく考えてみると各職の仕事仲間が皆組合員だったので、自分も仲間の一員になれたのだと思えました。

しかし組合活動には全く参加しませんでした。加入して何年か経ったころ、父が病に倒れ、自分自身まだまだ修行の身で仕事の段取りなどわからないことが多く、大変な時期に組合の仲間が仕事や組合での手続等の手助けをしてくれました。本当に仲間がいてよかったですと思えました。

その頃の仲間(ほとんど父親世代でした)は、役員や組合を離れてしまっています。これからは自分がある時経験した事を仲間に戻していきたいと思えます。組合に加入してよかったですと思われよう、これからも組合活動をしていきたいと思えます。

【台東・塗装・遠藤秀明通信員】私が支部役員になったキツカケは母親が亡くなり、一人になった父親の面倒を見るため台東区に帰ってきたことです。45歳の時です。当時の書記長と先輩役員

3年後の正月に急性心筋梗塞で、2週間入院して無事退院、5年後に同じ病気で2回目入院をしましたが、何とか社会復帰できました。2度も土建国保に命を助けられて、それ以来心を入れ替えて土建の仲間との付き合いも変わり、何より組合活動に対する考え方もあらたまり、何ごとに対しても積極的に行動するようになりました。

頼れる諸先輩と仲間

適切なアドバイスが助けに



清水さん

【町田・給排水・清水健通信員】私が東京土建に加入したのは20数年前。青年部の活

動をきっかけに、組合活動に参加するようになりました。入って良かったことのひとつが、横のというより人との繋がりができ、仕事や利益とは別の役割を担うことで、生活にも張り合いができました。仕事上の悩みや困ったとき、分からないことがあれば

諸先輩方や仲間が、いつでも相談に応じてくれ、適切なアドバイスをしてくれるのも大きな助けとなっています。現実的なところでは、一人親方労災、賠償保険、交通災害共済、自動車共済や自転車保険の利用です。思わぬトラブルや事故にも適切に対処で

仲間がいてよかった

父が倒れたときに実感



土橋さん

【豊島・塗装・土橋弘典通信員】私が東京土建に加入したのは、父が組合員であったこともありますが、伯父も組

合員であり分会長になった年に、ちょうどよいタイミングで加入した(させられた)のがキツカケでした。

何とわからないまま加入したのですが、よく考えてみると各職の仕事仲間が皆組合員だったので、自分も仲間の一員になれたのだと思えました。

しかし組合活動には全く参加しませんでした。加入して何年か経ったころ、父が病に倒れ、自分自身まだまだ修行の身で仕事の段取りなどわからないことが多く、大変な時期に組合の仲間が仕事や組合での手続等の手助けをしてくれました。本当に仲間がいてよかったですと思えました。

【葛飾・清掃・細貝文洋通信員】東京土建に加入したのは、ある人の紹介で会社のキツカケはなかったのですが、

何もわからないまま加入したのですが、よく考えてみると各職の仕事仲間が皆組合員だったので、自分も仲間の一員になれたのだと思えました。

しかし組合活動には全く参加しませんでした。加入して何年か経ったころ、父が病に倒れ、自分自身まだまだ修行の身で仕事の段取りなどわからないことが多く、大変な時期に組合の仲間が仕事や組合での手続等の手助けをしてくれました。本当に仲間がいてよかったですと思えました。

土建国保に命救われ

組合活動へ積極的に参加

【台東・塗装・遠藤秀明通信員】私が支部役員になったキツカケは母親が亡くなり、一人になった父親の面倒を見るため台東区に帰ってきたことです。45歳の時です。当時の書記長と先輩役員

3年後の正月に急性心筋梗塞で、2週間入院して無事退院、5年後に同じ病気で2回目入院をしましたが、何とか社会復帰できました。2度も土建国保に命を助けられて、それ以来心を入れ替えて土建の仲間との付き合いも変わり、何より組合活動に対する考え方もあらたまり、何ごとに対しても積極的に行動するようになりました。

役員になって20年、かけがいのない仲間と巡り合え、あつという間の楽しい時間でした。